



## 夢とやすらぎを求めて

WORKS' INTERVIEW

加藤奈々枝

(社会福祉法人名東福祉会理事長)

きちんと話を聴き、いつしよに悩み、いつしよに解決していく場が、福祉施設なんだと思います。

社会福祉基礎構造改革により、社会福祉が急激に変わりつつあります。名東福祉会の理事長に、新しい時代を迎えた名東福祉会の基本理念について、話しを聞きました。

●社会福祉の構造改革がいよいよ始まりました。その一方で、知的障害者の福祉では、いまひとつ将来が見えないという意見を聞きます。

介護保険が始まりました。ビジネスチャンスとばかり、多くの一般企業も参入が相次いでいます。知的障害者の分野でも平成15年から、措置から契約になるといわれていますが、今の老人福祉の分野

とは、やや異なった方向にいくのではないかと考えています。それは、介護と知的障害者の支援との本質的な差から生まれてくる感情なのかもしれません。

高齢者福祉の場合、介護保険という名が示すように、介護が中心のサービスになります。

介護保険が始まり、多様な経営主体が参入して、いろんな形態の

福祉サービスが始まりました。特に、居宅介護の世界では多様化が進みました。

居宅介護の場合、国の設定した介護保険の報酬単価が低いこともあって、できるだけ数をこなしていかなければ経営的に成り立たない状況です。決められた家事介護や身体介護を時間内に淡々とこなす、話をする暇はないような状況がうまれつつあります。

障害者本人、家族、地域のひとびと、職員など、施設にかかわりを持った人たちが、どんなかたちでもいいから、「生きがい」を感じていただけること。それが、施設の存在意義かな。

居宅介護は在宅福祉です。日本の社会福祉で、将来、中心的な役割を担うはずの分野です。しかし、時間内にマニュアル通りの決められたサービスを淡々とこなしていくような福祉サービスは、知的障害者の福祉分野では、まちがいない、利用者も家族も望んでいるよ

安全から安心へ、安心からやすらぎへ。  
やすらぎから夢へ

うな方向ではありません。

介護保険の導入により、違和感のあるサービスが広がっていて、「将来が見えない」という不安がでてくるのも当然かもしれません。

●家族が望むサービスとは具体的にはどういう方向性なのでしょう。

知的障害者の福祉サービスは、障害者本人に対するサービスと同様に、家族に対するサービスがとても重要です。障害者本位の福祉と家族に対する支援は車の両輪のようなもので、どちらが欠けてもうまくいくものではないと思います。

家族に対する支援は、生活の現在と未来に「やすらぎ」と「夢」を感じてもらいたいと思います。私は、この50年にわたる活動の中で、本人に対する直接的なサービス以上に、家族に対する支援になることが、知的障害者の地域福祉を進めていく上で、大切であると思ってきました。福祉国家をめざして、今日の福祉は大きく変わろうとしているとはいいますが、障害者とその家族の「やすらぎ」

を求めることは、50年前から、福祉の本質的な目標です。

昔に比べて、障害者は地域で生活しやすくなりましたが、我が子が発達障害をもって生まれてきたときのショックは今も昔もそれほど変わらないでしょう。時代が進み、地域の中で、知的障害者が生活できる範囲が広がり、障害者本人の成長にもなっており、新しい問題が生まれます。名東福祉会のように成人施設になると、家族もベテランになりますが、それはそれで、新しいライフステージにふさわしい新しい困難が生まれてきます。青年期の家庭内暴力、通勤途中の性的なトラブル、発作による怪我、両親の離婚、など、こどものころには体験したことのない問題が、つぎつぎに現れます。ひとり

ひとり、困難は違います。家庭が100件あれば、100件とも違った幸せと問題を抱えて生活しています。

そういったひとつひとつの具体的な問題に対して、きちんと話を聞き、いっしょに悩み、いっしょに解決していく姿勢が必要です。そういうサービスを提供する場が、福祉施設なんだと思います。

「やすらぎ」と「夢」は表裏一体です。夢がなければ、今を生きて

家族の方々に「やすらぎ」と「夢」を感じてもらうために、  
何がやれるのかが問題ですね。



いくことが難しいものです。今の安心とともに、将来の夢や将来の「やすらぎ」を得ることができなければ、結局、今の生活にも不安がつきまとうことになります。そのためには、将来、どういった事業を行うのかということ、きちんとした形で、障害者や家族の方に提示できることがとても大切です。

●「夢」が今のやすらぎにつながるといえるのはいかにも理事長らしい、言いまわしですね。

「夢」はこわれやすいもので、混乱の中にあると、「夢」も見にくいものだと思います。その意味では、「夢」の前に、今「安心」できることが大前提です。

施設では、毎日、大なり小なり、事故や怪我が起こります。建物に事故が起こりやすい要素があれば、直さなければなりません。プログラムの質もいつもチェックしなければなりません。ほとんどの人が、医薬品を欠かさずに飲まなければならぬわけですから、これらの管理もしなければなりません。そうやっていても、事故は避けられませんから、怪我をした場合や事

故にあった場合を想定した、リスク管理もしなければなりません。

食べ物の問題も大きいでしょう。肥満の問題は知的障害者の施設では大きな問題です。成人病に直結する問題です。おいしい食事を出してもらえただけでは、安心して利用してもらええる施設には



夢がなければ今を生きていくのも難しい。

なれません。

ただ、「安心」であるだけでは、まだ、「やすらぎ」にはつながりません。また「夢」を感じることもないでしょう。日々の活動に、喜びや、笑いがなければとてもつま

らない施設になってしまいます。リスクをとって、新しいプログラムに挑戦し、いつも、感動と夢がある施設を作らなければならないと思います。

将来の計画を明らかにすることは、「やすらぎ」を感じるためには絶対に必要なことです。明日はどうなるのか、来月はどうするのか、来年は、5年後は、10年後はといったように、家族にとって、夢のある企画が豊富に示され、その夢が夢ではなく「実現」していく体験を積むことで、「やすらぎ」は訪れます。

●「やすらぎ」のためには、夢が実現可能であることがきちんと情報開示されなければなりません。

社会福祉構造改革の本質は、多様な経営主体の参入と情報開示であると考えています。情報開示のために、財務諸表や経営活動収支計算書が新しく会計基準になりました。確かに、法人の経済活動は重要な要素です。これらの財務諸表を読めば、法人の体質がわかるからです。

しかし、利用者や家族が見たいのは、これらの過去の報告書よりは、経営者や、職員が、障害者のために、どんな方針を持ち、どんな「夢」を持っているのかということでしょう。そして、その「夢」つまり、法人の将来に対してどんな行動を起こしているのか、財務諸表にあらわれてくるのです。

私たちの法人の家族会は、入所施設をつくるために、たいへんな額の寄付をして下さっています。家族会の方々が中心になって築いていただいた入所施設建設資金は、この4月で1億2000万円を超えました。私どもの法人の利用者数からすると、とても大きな金額です。それだけ、私たちの法人に夢を託して下さっているのだと考えています。

今、名東福祉会では、具体的に施設の候補地の選定に入っています。これからつくる施設は、地域生活支援センターとして、グループホームを支援することができるような場にしていきたいと考えています。

●期待の大きさには身が引き締ま

## 障害の重さでひとまとめにしたなら、やるべきことが何もわからなくなってしまう。

りますね。

名東福祉会の理事や職員は、利用者とその家族の大きな夢を背負っているわけです。身が引き締まります。私たち福祉施設の職員は、利用者の声に、常に、真摯に耳を傾ける姿勢が必要です。そして、その期待に応えることが、21世紀の福祉をリードしてするための、一番の近道なのだと思います。

職員の研修は、研修会に出席す

ればできるわけではありません。外で、いくらい話を聞いても、それを取り込んで、自分はどうしたらいいのかを考え、行動に移さない限り、研修の意味はありません。

私たちは、利用者がどうしたらより幸せになれるのかということに対して、こだわりを持つことが必要です。そのために、必要な知識を吸収するのです。

私たちは、障害者の生活の選択肢をいかに増やしていくかという視点で、歩んできました。今、選択肢の拡大が、当たり前のようにいわれる時代になりました。選択肢の拡大とは、自由を求めることといってもいいかもしれません。これも、幸せのひとつの形であると思います。

私は、50年間、障害者の母親をやってきて、そろそろ、人生も終わりに近づいてきました。知的障害の長男とは、ほんとうに長いつきあいになってしまいました。いろんなことがありましたが、そろそろ中年の域も越えようかという彼がいちばんよろこぶときは、「ありがとうね」といわれたときです。

人生にとって、自由は大切です。しかし、生きがいを感じるときは、人の役に立つことができたということを実感したときです。究極の幸せは、人から感謝されることではないでしょうか。

障害者本人、家族、地域のひとびと、施設の職員、ボランティアなど、施設にはたくさんの方が毎日訪れます。施設にかかわりを

持った人たちが、どんなかたちでもいいから、「生きがい」を感じていただけること。それが、施設の存在意義ではないかと思えます。

●さいごに、名東福祉会の理事長として、読者の方にメッセージを届けていただきたいのですが

家族会のみなさまや、地域の方々の応援によって、私たち名東福祉会の職員は、やりがいのある仕事をさせていただきました。ほんとうに感謝いたします。

名東福祉会の利用者の方は障害が重いといわれます。もともと、「どんなに障害が重くても、受け入れを拒むことがあつてはならない。」という思いから出発したところもあり、障害が重い人が多くなっているのは事実かもしれません。

しかし、私たちは、名東福祉会の施設を、障害の重い人たちのための施設と考えたことは一度もありません。今施設を利用して下さっている人たちも、障害が重いから名東福祉会の施設を選んだわけでもありません。

# 4月29日は 藤まつりです。

至 地下鉄 原

天白消防署

おにたけ整形外科

## 天白ワークス

名古屋市天白区御前場町327

(052) 804-5487

毎年、4月29日、満開の藤棚の下で、開催しております天白ワークスの藤まつりは、今年で13回目を迎えます。いろいろ新企画もとりそろえてお待ちしております。

みなさん、ぜひお越し下さい。

私たちは、施設を利用して下さる方ひとりひとりにあわせてサポートを大切にしています。ひとりひとりにあわせてプログラムをつくるため、とりとめのない感じがするかもしれません。しかし、それが私たちの強みでもあります。授産とか更生といった枠組みにとらわれずにやってきたのは、障害の重さで人をひとまとめに見ようとする風潮に対して挑戦してみた気があったからなのかもしれません。

せん。実際に、ひとりひとりを見つめれば、障害の重さは関係ありません。ひとりひとりが抱えている問題の奥深さ、喜びの大きさは、障害とはかかわりないからです。

社会福祉法人の基礎構造がかわっても、私たちが大切にしなければならぬことは変わりません。名東福祉会を利用しているみなさまや、職員に夢とやすらぎが訪れますことを、理事長として強く願っています。

ACROSS THE BORDER

障害者への支援を肩肘張らずに、何の緊張もなくできれば、と思う。街角で障害者を見かけたら、さりげなく手を貸す。そして何事もなかったかのごとくその場を立ち去る。うーん。かっこいい。そんな風にさっそうと助けになることができればいいと思う。

名古屋の電気街、大須の街で買い物をしているとき、ひとりの車椅子の青年が、店の中に入ろうとして、四苦八苦していた。店と歩道には、段差をなくすため、プラスチック製の段差ブロックが置いてあった。よく、ホームセンターなんかで売っているやつだ。これが、車椅子との

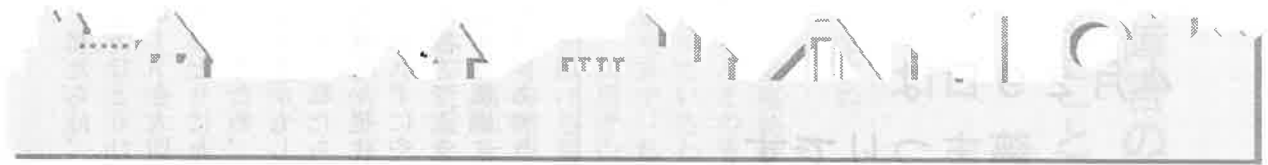
相性が悪いらしく、なかなか乗り入れることができない。ぼくは、こは助けるときだ！と思った。彼の後ろに走り寄り、「押します！」といって、後ろからグイッと押しした。

悪いことに、彼も同じタイミングで車椅子を回したので、力が重なって、車椅子に乗った彼の体は、ウイリーしてしまった。かつ、かっこ悪い。なんて無様な姿なんだろう。店の中に車椅子が入り、彼はこちらを見た。

「ありがとうございます。」

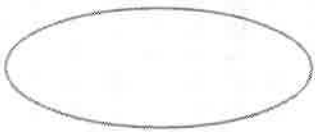
むっとされるかと思ったら、彼はほんとうにさりげなく、僕のこころをいたわるように、自然に御礼をいってくれた。その目は、知性とやさしさに溢れていた。ぼくは、人助けをするつもりが、人助けされたのだった。

そのとき、僕は、その青年が、日頃からボランティアをどうやって育てていくべきなのかを真剣に考え、実践していることを悟った。



みんながいるから楽しい。

GROUP HOME



川村 友紀

こいけホーム 職員

むずかしいことはいろいろあるけど、グループホームがもっと増えて、多くの声が集まれば、変わってくるんじゃないですか。

平成11年4月1日、名東福祉会にとつて初めてのグループホーム、こいけホームが開所しました。こいけホームも、多くの方の支えにより、無事、1周年を迎えることができました。

グループホームとは、障害を持った人が、自立生活の促進のため、親や施設から離れ、町の中で個々の生活を展開する場です。援助される人としてではなく、主体者として、多くの経験を通し、人間として成長し、生活を実感する場です。こいけホームもこの1年、それらを念頭に置き運営してきました。

こいけホームでは現在4人の方が暮らしています。メイトウ・ワークスの利用者の方が1人、太白ワーク

スの方が2人、一般就労をされている方が1人です。開所時は、親元を離れての生活が全員初めてで、年齢も性別もそれぞれ異なるということに不安がありました。が、ホームシツクになる人もなく、笑いの絶えない、活気あるホームになっています。

月曜から金曜日は全員そろいますが、土日はそれぞれ家庭の事情、個人の都合により自宅に帰る人、ホームに残る人と様々です。ホームでの生活は自由になっています。TVを見る、音楽を聴く、買い物に行く、趣味の編み物をする、土日の外出、月一度、夜カラオケ、ボーリングを楽しむんだり、それぞれ自分の生活を築いています。

ただ、ホームも1つの社会です。それぞれの利用者さんは、何らかの当番等の役割をもっています。食事は、職員を含め、5人で食卓を囲んでいます。お互いの情報交換、体調確認等の目的も達成できる時間となっています。

現在、全国には1600ヶ所以上の知的障害者のグループホームがあります。愛知県内にも、50近くのグループホームが設置されています。この数は、全国都道府県別に見ると、全国第21位、人口比では第39位という結果がでています。まだまだ、愛知県内のグループホームは少ないということです。

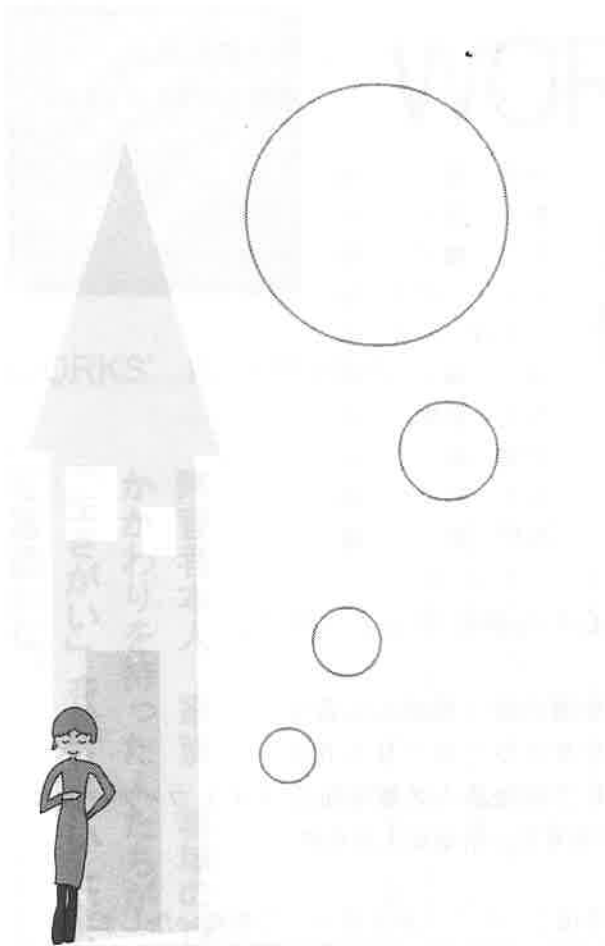
グループホームは、町の中であた

りまへの生活ができ、個人にあわせて生活支援が実現できることに加え、コストも大規模施設よりもかかりません。しかし、知的障害者のグループホームの場合、介護保険によるサービスが適応される高齢者のグループホームと比べ、制度的な格差が指摘されています。精神障害者のグループホームも課題を抱えています。

知的障害者のグループホームの課題は、高齢化、重度化等です。より

障害が重い方の需要が高まっていますが、今の制度では職員の人数が不足しており、大きな課題となっています。より多くのグループホームが設置され、より多くの声が集まるようになると、もっと制度がよくなっていくと思います。

難しいことは多々あります。しかし、利用者さんたちの「友達と一緒に楽しい」「ずっといたい」という声を聞くと、名東福祉会でもグループホームをもっと増やしてほしいと思う、今日この頃です。



### ●福祉ミニミニ 「バックアップ施設」

グループホームを設置・運営する場合、バックアップ施設の設置が必要です。

グループホームの場合、家族的な運営体制が魅力です。しかし、反面、世話人の勤務態勢が入所施設よりも弱く、単独で運営されると、緊急時の対応に問題が起きます。そこで、グループホームの設置基準として、バックアップ施設を指定することになっています。

名東福祉会では、こいけホームを運営しています。主に、メイトウ・ワークスの職員がこいけホームのバックアップ施設に指定されています。

昨年1年間の、こいけホームの運営を振り返ってみると、メイトウ・ワークスの職員が、だいたいひとり年間1・2回、グループホームの夜勤を行っています。入所施設の勤務と比較すると夜勤の勤務日数もはるかに少なく済んでいます。また、メイトウ・ワークスだけでなく、全施設から、たくさんの職員が不定期にぶ

らり訪問をしました。そのような体制にも恵まれ、こいけホームは予想を上回る成果を上げることができました。

しかし、一ヶ所の通所施設がバックアップできるグループホーム数の限界は意外に低く、わずか2ヶ所のグループホームでも限度に達するといわれています。今後、名東福祉会でも、グループホームを増やしていくことが望まれますが、通所施設の場合、バックアップの限界が意外に低いところにあることは念頭に置いておく必要があります。

もし、グループホームのバックアップを専門的に行う機関があれば、状況は一変します。知的障害者の生活支援で福祉現場の最先端を走っているグループホームの職員が、より質の高い生活支援サービスを維持できるような、法人オリジナルのバックアップ体制を開発することが望まれます。

# BUSINESS

# NEWS

2000年 名東福祉会事務局報告

- 1/11 メイトウ・ワークス家族会新年会
- 1/13 メイトウ・ワークス成人式
- 1/18 第2回フロール展打ち合わせ
- 1/20 名東福祉会家族会合同役員会
- 1/21 名東区福祉まつり打ち合わせ
- 1/26 名障連役員会
- 2/ 1 メイトウ・ワークス家族会
- 2/10 名東福祉会理事会
- 2/19 名東手をつなぐ育成会卒業を祝う会
- 2/21 日進市障害者基本計画推進協議会
- 2/22 名東福祉会家族会合同研修会
- 2/23 第2回フロール展打ち合わせ
- 2/25 県社協・セルフ役員会
- 2/27 名東区福祉祭り
- 3/22 第2回フロール展打ち合わせ
- 3/22 名東区社会福祉協議会理事会
- 3/23 名東福祉会家族会合同役員会
- 3/24 名東福祉会理事会

## 編集室

10年ぶりに編集室に戻りました。やっぱり、WORKSの発行作業は、たいへん楽しいものです。

社会福祉基礎構造改革がスタートしました。これから福祉サービスの多様化が徐々に始まるものと思います。5年前に銀行の大淘汰時代がくることを予想できた人がほとんどいませんでした。社会福祉法人も5年後は、今から予想できなかったようなサービスを行っていることと思います。利用者にとっても、職員にとってもクオリティの高いサービスを提供しているところが選ばれるのだと思います。

名東福祉会の活動は、これから、入所施設とグループホームの建設に向けて大きく転換していきます。それらの活動を、遅れないでレポートできればと思います。(久)

ご寄付ありがとうございました。

(平成11年12月17日～平成12年3月16日)

伊藤 健 様  
野寺 艶子 様  
瓜生 廣司 様  
瓜生 三枝子 様  
大須賀 浅夫 様  
林 輝夫 様  
恵土 富雄 様  
千葉 凱三 様  
山本 明子 様  
西村 宏一 様

心から御礼申し上げます。

後援会費 郵便払込番号

0880-8-9556

社会福祉法人名東福祉会メイトウ・ワークス  
(通常払込料金加入者負担)

後援会へのご入金はこちらにて掲載いたします。

職員人事異動(2000年4月1日付)

新任 真辺 順子 指導員(メイトウ・ワークス)  
高野瀬 聡 調理員(メイトウ・ワークス)  
退職 山内 美恵子 調理員

社会福祉法人 名東福祉会

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303

メイトウ・ワークス

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303

TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

天白ワークス

〒468-0023 名古屋市天白区御前場町327

TEL 052(704)7751 FAX 052(704)7552

デイケア はまなす

〒465-0054 名古屋市名東区高針台1-911

TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

こいけホーム

〒465-0047 名古屋市名東区小池町468-1

TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385